

環境活動報告 2008 年度

成蹊学園の環境側面

環境側面とは、成蹊学園が教育研究を進めていく上で環境と相互に関係しうる内容のことです。

たとえば、環境保全に関する教科を設置すると「プラスの環境側面」、電気や紙を使用すると「マイナスの環境側面」となります。

■ プラスの環境側面 全項目で 2008 年度目標を達成しました。

環境方針	著しい環境側面	目的 2008～2010 年度	目標 2008 年度	達成状況
環境問題に貢献する人材育成および環境分野の研究推進	環境教育・学習プログラムの提供	小・中高・大学における環境教育・学習を推進する。	小・中高・大学における環境教育・学習の機会を増やし、充実させる。	○
環境問題に貢献する人材育成および環境分野の研究推進	環境関係の研究の実施	中高・大学における環境関係の研究を充実させる。	中高・大学における環境関係の研究をさらに増やし充実させる。	○
環境に関する教育研究の発進・公開、社会貢献を図る諸活動	環境問題に対する理解と関心の向上	学園における環境教育・学習について、発信・公開するとともに自らの環境への意識を高める。	学園における環境教育・学習について、発信・公開するとともに自らの環境への意識を高める。	○
近隣地域とのコミュニケーションを図る	地域とのコミュニケーション	地域社会とのコミュニケーションのさらなる充実を図る。	地域社会とのコミュニケーションのさらなる充実を図る。	○
みどり豊かなキャンパスの充実と環境に配慮したキャンパスづくり	環境の整備・緑の保全・充実	キャンパスの緑の維持と適正な計画による整備・充実を図る。	キャンパスの緑の維持と適正な計画による整備・充実を図る。	○

■ マイナスの環境側面 全項目で 2008 年度目標を達成しました。

環境方針	著しい環境側面	目的 2008～2010 年度	目標 2008 年度	達成状況
環境負荷の低減と環境汚染の防止（省エネルギー）	電力・ガスの使用	電気・ガス使用量の削減（3年間で3%削減）	電気・ガス使用量を2007年度（基準年）実績に対し、2%削減する。	○
環境負荷の低減と環境汚染の防止（省資源）	水の使用	水の使用量の削減（3年間で1%削減）	水の使用量を2007年度（基準年）実績に対し、0.5%削減する。	○
環境負荷の低減と環境汚染の防止（省資源）	紙の使用	紙の使用量の削減（3年間で2%削減）	紙の使用量（OA紙・封筒購入量）の把握方法を検討し、2008年度の実績を算出する。	○
環境負荷の低減と環境汚染の防止（廃棄物の減量）	使い捨て容器・箸・レジ袋の使用	使い捨て容器・割り箸・レジ袋の削減	使い捨て容器・割り箸・レジ袋の削減を手順に基づいて実施する。	○ ※
環境負荷の低減と環境汚染の防止	製品の購入	グリーン購入の取組みを促進する。	学園のグリーン調達方針を策定する。グリーン購入法適合製品の情報提供を進めて積極的な購入を促す。	○
環境に関連する法的要求事項の遵守	化学物質の使用	化学物質の適正な管理を進める。	化学物質の適正な管理を実施し、維持する。	-

備考：○は目標を達成したもの、-は数値目標をおこななかったもの ※数値の測定は割り箸のみ実施

学校法人成蹊学園

【活動内容】

- 地域清掃活動の参加を促進します。
- 2007年度に引き続き、沿道の緑化を推進します。
- 学園の環境への取り組みを内外に周知し、マナー向上をめざします。

【活動内容】

2008年4月よりISO14001の認証取得を目指したEMS活動を開始し、学園全体でエネルギー使用量削減活動に取り組みました。6月に内部監査実施、9月に外部審査を受け、11月27日にISO14001認証を取得しました。

今年度も昨年度に引き続き、クールビズやウォームビズを実施しました。また、小学校北側の沿道緑化、および小学校本館周辺の樹木・草花にクイズ形式の表示板の設置を行いました。こうした活動を通じて学園構成員の環境に対する意識啓発を行っています。

このような学園の環境に対する活動を広く周知するため、キャンパス各所の環境に対する取り組みを記載したキャンパスマップを作成しました。EMS活動を自己評価する内部環境監査員を新たに19名（合計80名）養成しました。

成蹊小学校

【活動内容】

- 野菜の収穫から調理までの一貫した食農教育をさらに押し進めます。
- 環境に関する授業の実践記録を整理し、カリキュラムの充実を図ります。
- 毎週の全校清掃時間を確保し、児童と教職員が共に力を合わせて校内の美化をめざします。

【活動内容】

学園馬場の馬糞を肥料化し、そのみで校内の畑や学園馬場横の小学校園芸場での有機栽培を、今年も全学年が推し進めました。馬場があり畑と園芸場があるという恵まれた環境を活かしての学習が、汗を流した成果として作物の収穫を喜んだり、その収穫物を使っての調理実習を楽しんだりする子どもたちの生き生きとした姿を引き出しました。

施設整備面では、屋上に太陽光発電パネル、本館前庭にはビオトープをそれぞれ設置しました。自然の恵みを実感する体験ができたり、自然を楽しむ活動ができたりする新しい変化が、子どもたちの関心を高めています。

成蹊中学校・高等学校

【活動内容】

- 高校新校舎でも省エネルギー設計を採用して環境に配慮します。
- 生徒会を中心としてゴミの分別などリサイクルに努めます。
- 施設や備品を長く大切に使い資源の有効活用と環境美化に努めます。

【活動内容】

各教科で環境に関する授業を実施し、自然観察会を通じて自然の大切さを、敷地内の自然を活かした実習や気象観測等を通じて自然との共生を学ばせる教育活動を行いました。また、生徒会中心でアルミ缶の回収やゴミの分別、欒並木の清掃などの美化活動にも取り組みました。

施設整備面では、高校の新校舎に省エネルギー設計を採用して電気、ガス、水資源の削減を実現しました。さらに、日常から敷地内の緑化を推進することでみどりの保全に努めています。

成蹊大学

[法学部・経済学部・文学部]

【活動内容】

- 環境をテーマとした講座を学生や地域を対象に実施し、学術面で環境問題に取り組みます。
- 身近なゴミの清掃や不要な書類・資料の整理を行う日を設け、環境意識の醸成を図ります。
- 学生環境委員会を中心にエコ活動がより活発にできるよう大学組織としての支援体制を強化します。

【活動内容】

大学の環境に対する社会的貢献及び責任として、教育研究を通じて、毎年多くの環境マインドを持った卒業生を社会に送り出せるよう努めています。

入学後の学生生活オリエンテーションにおいて、学生環境委員会の学生が、新入生に対して環境活動オリエンテーションを実施しました。経済学部では、「Thinking "ECO" ―環境を考え取り組む―」を武蔵野市寄附講座により開講し、環境問題を多くの受講者ととも考察しました。

また、毎月15日を「大学環境デー」に設定し、学生・教職員が自らできる環境負荷の軽減について実行しながら、環境意識の醸成を図っていく取り組みを始めました。

[理工学部]

【活動内容】

- 学園全体で薬品や高圧ガスの使用量や貯蔵量に関する管理システムの運用を開始します。
- 環境分野の新任教員を採用し、環境に関する教育研究活動をさらに促進します。

【活動内容】

理工学部は、薬品や高圧ガスなどに関する管理方法を法令順守の観点から再度検討し、昨年度の「薬品等管理システム」の導入に引き続き、新たに高圧ガス貯蔵庫を建設しました。

研究活動では、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業補助金に基づき「人と環境にやさしい統合化された社会システム研究基盤整備」をテーマとした研究プロジェクトを開始しました。

■ エネルギー消費状況

▶ 2008年度エネルギー消費状況

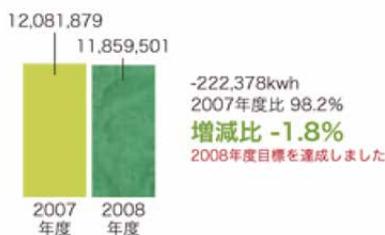
<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/data2008.pdf>

▶ CO₂換算データ

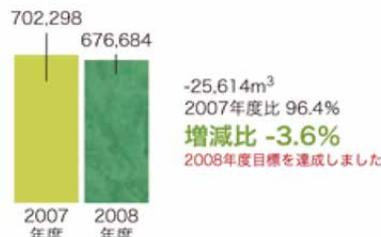
<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/yeardata.pdf>

2008年度学園全体のエネルギー使用状況（2007年度比較データ）

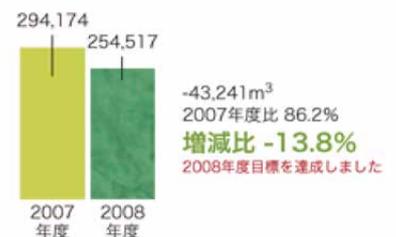
電気使用量 (kwh)

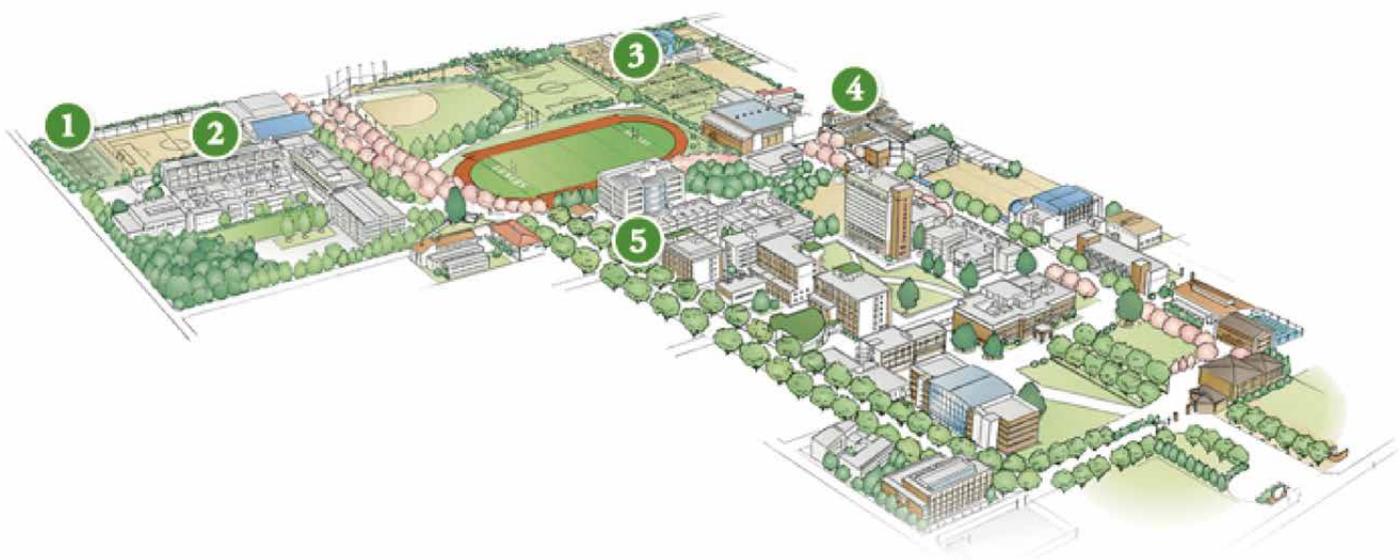


ガス使用量 (m³)



水道使用量 (m³)





1 沿道緑化 整備

学園北側沿道（約 100m）等をウバメガシなどで緑化しました。学園は 2007 年度から計画的に敷地外周沿道緑化を進めています。



2 高校ホームルーム棟 新築

省エネ型校舎でセンサー型自動照明やペアガラス、屋上緑化など各種環境技術を採用しています。



3 大学テニスコート

大学テニスコート（No.4～6 面）の人工芝化を行いました。雨水浸透人工芝の採用により地下水を豊かにし、水循環を健全にする効果があります。



4 小学校本館 新築

省エネ型校舎でセンサー型自動照明やペアガラス、屋上緑化や太陽光発電など各種環境技術を採用しています。また、建物の横にピオトープを設置しました。



5 大学 12 号館ボイラー撤去

本館や小学校エリアなどの蒸気暖房を行っていた重油式ボイラーを廃止・撤去しました。これにより学園内の重油使用は非常用発電設備 1 台のみとなります。